令和２年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　　　　　学校番号016　練馬区立北町小学校

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 課題分析 | 授業改善策 | 改善状況 |
| 国語 | 〇全国学力調査の結果では、「根拠を明確  にし、文章で回答する問題」の正答率が  33.7％と低かった、他の読み取りが概ね  できていることから、思考力・表現力そ  のものの不足というより、文章で表現す  ることへの苦手意識があるのではない  かと推測される。  〇「文章の内容を読み取る問題」について  は「説明文」の平均が81.0％であるの  に対して「物語文」が60.7%と下回った。「人物の感動の根拠」や、「情景描写から  分かる人物の心情」を選択する問題に、  課題が見られた。  〇語句については、昨年度に引き続き「修  飾する語を選択する問題」に課題が見ら  れた。２問とも50％台で大きな課題だと  言える。 | 〇授業において、自分の考えを文章で発表した  りノートに書いたりする場面を1回は取り入れる。その際、表現のよさ（主述の正確さ・根拠の明示・具体例など）について具体的に褒め、児童に自信をもたせる。思考・判断・表現における評価規準を予めもって授業に臨む必要がある。  〇物語文については、文章や語句の表現と登場人物の心情をセットで読み取るようにする。いろいろな感じ方に共感する一方で、一般的な捉え方を理由と共に必ず押さえるようにする。  〇ぐんぐんタイムにおける修飾語の指導に重点  を置く。定着具合を測定し、家庭学習なども  併用しながら可能な限り繰り返す。 |  |
| 社会 | ○教科書や資料集など、資料の中から相違や関連事項を見い出す学習を充実させる必要がある。  ○学習したことをまとめ、自分の考えをまとめる活動を充実させる必要がある。 | ○提示する資料を絞り、事実や分かること、資料から予測できることなどを分けて分析させノートに書かせる。  ○学習課題に対するまとめを書かせ、ポイントや重要語句を提示して、丁寧に指導する。  ○日本の史実だけでなく世界の史実にもふれさせ、日本史をさらに探究できるようにする｡  ○新聞やテレビのニュースを取り上げ、自分の考えについて話し合う機会を設ける。  〇各学年で主に育成すべき力について重点を置く。  〇今年度は、対話を取り入れるのが難しいが、対話の前後に自分の考えをまとめる時間を設け、それをもとに話し合わせる。正しい答えを書くのではなく、結果から言えることや自分が考えたことを伝える活動であることを知らせ、実践しているものを紹介する。 |  |
| 算数 | 〇全国学力調査の結果では、「単位の変換」  や「面積の公式」を理解し、正しく使う力が身に付いていることが伺える。  〇「問題上のＡ子さんの意見を把握し、その意図を図で表したものを選択する問題」の正答率は、38.9％だった。Ａ子さんの意見はいわゆる正解ではない。多面的に問題を把握する力に課題があると言える。  〇「解決の方法を言葉で説明する問題」の正答率は、49.4％だった。話型が示されているにも関わらず正答率が低かったことから、国語同様、文章に対する苦手意識があるのではないかと推測される。 | 〇算数種熟度別によるきめ細やかな指導を継続  していく。  〇新学習指導要領の目指すところである。授業では、問題を多面的に解決する展開を実現する。今年度は話合いの時間が十分に取れないため、低・中学年では教師側からもいろいろな解き方や表現方法を提示するようにする。高学年ではそれらを組み合わせて多角的・多面的に解決することに重点を置き、その中から妥当な考えをまとめていくようにする。  〇各教科を通じて、文章で表現する場面を取り  入れ、褒め、児童の苦手意識を減らしていく。 |  |
| 理科 | 〇器具や機器の扱い方について、概ね身に  付いているが、個人差が大きい。  〇既習事項や生活経験と結びつけて予想  することに課題がある。予想が自分事に  なっていないために、実験計画や考察が  浅くなり、思考が深まらない傾向が見ら  れる。 | 〇今年度は理科室での実験が難しい。教師実験  や映像を使って理解と技能の向上を図る。  〇予想や仮説を立てる活動について、第４学年だけではなく、第５，６学年においても引き続き重点的に扱う。さらに、各過程において自分の予想を振り返りながら思考を修正していくことで、主体的に学ぶ力を伸ばしていく。 |  |
| 生活 | ○活動や体験を通して感じたこと、気付いたことについて考えを深めることができない児童もいる。  〇気付いたことを振り返ったり、友達と共有したりして、児童が気付きを深める時間が十分でない。 | ○児童が気付いたことを基に考えを深められるように、見付ける、比べる、例える、試すなどの多様な学習活動を行う。  ○活動や体験したことを言葉や絵、動作で表す表現活動を重視し、体験や活動を振り返ったり他者と伝え合ったりする活動を充実する。 |  |
| 音楽 | ○曲想を生かした表現を工夫し、自分の思いや意図をもって演奏することが十分ではない。 | ○曲想を生かした表現ができるよう、音楽を形づくっている要素やそれらの働きに着目し、楽曲に対する理解を深める。  ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解しやすい楽曲を取り扱う。 |  |
| 図画工作 | ○客観的な評価を気にして自分の表現に自信がもてない児童が複数いるため、児童が思いついたことや考えたことを安心して表現できるような指導が必要である。 | ○作品の完成度ではなく、よく考えている様子や試行錯誤している様子を具体的に認める声かけを行う。  ○造形遊びを通して自分なりの発想で活動することの楽しさ・充実感を味わわせる。 |  |
| 家庭 | ○安全と衛生に注意して、ミシンなどの用具の取り扱いができる力を身に付けさせる必要がある。  ○友達と協力をして実習を行い、友達の活動にも関心をもつ態度を十分に育む指導が不十分である。  ○学んだことを生活に生かし、主体的に学び進めていく力を高める必要がある。 | ○用具の取り扱いは、教科書、教材提示装置、絵カードなどを用いて知的理解を図り、段階的に実技指導を行う。新型コロナウィルス感染拡大予防に対する安全指導や衛生管理を徹底する。  ○実習を行うにあたって、グループのめあてを立てさせる。  ○分担して作業をしているか確認をし、実習のめあてに基づいて振り返りを話し合わせ、次時の活動に生かすようにする。  ○学んだことを実生活と結び付けて考える場面を設ける。  ○学習後に家庭学習で実践する課題を出す。家庭にも協力を求めることで、家庭で実践し、新たな課題を見出せるようにする。さらに、技能の定着を図る。  ○給食の準備や片付けにおいて、常に友達と協力できるようにする。  ○給食の時間に、食生活と調理に関することを話題にして学びを深める。 |  |
| 体育 | ○個に対応する時間の確保が難しいため、個に応じた技能・体力向上を図る指導が不十分である。  ○話し合う時間の確保が難しいため、児童同士の「関わり」を高めることができていない。 | ○グループでの学習を意図的に増やしていき、その中で、個に応じた指導を増やしていく。  ○グループでの学習を意図的に増やしていき、その中で話し合う機会を増やしていく。  ○技能が高い児童、話し合いを進めることができる児童が均等に分かれるようなグルーピングを行っていく。  ○体力向上に向けて、５分間走や５分間縄跳びなど、体力を高める運動に取り組む。 |  |
| 外国語 | ○授業前の打ち合わせが短く、授業内容の伝達くらいしかできていない。ＡＬＴとの連携を工夫する必要がある。  ○学校外で外国語を習っている児童も多くいて、個人差に応じた指導をすることが難しい。  ○児童同士でコミュニケーションをとる際に、偏った相手とだけではなく、様々な相手とコミュニケーションをとろうとする指導の工夫が必要である。  ○「書くこと」に苦手意識をもたず、意欲的に取り組めるような指導の工夫についての情報が少ない。 | ○月に１度、放課後に各学年担当者とＡＬＴとの打ち合わせ時間を確保する。  ○苦手を感じている児童には、ＡＬＴや担任が助言し、「分かる」を感じる瞬間を増やしていく。歌やリズム、絵本やカードなど、分かりやすい教材となるよう工夫する。  ○教材を工夫し、多くの相手と関わることに必要性がある状況で、コミュニケーション活動を行うようにする。  ○書く動作のみではなく、音やリズムと合わせて耳と手で一緒に取り組めるゲーム等を取り入れる。日常生活でも、外国語に親しむために、外国語についての掲示スペースをクラスに作り、単語や文を掲示する。  ○動きを入れた歌や絵本などを活用し、外国語に対しての「楽しい」という思いが継続するようにする。  ○Activityの方法を工夫し、２人組やグループなど、様々な形で関わりながら外国語を使えるようにする。 |  |